

札幌市立向陵中学校の取組

1 道徳科の指導について

・授業づくりのポイント

今回の教材の場合、「ドーピングは良い」あるいは「ドーピングは仕方がない」という方向にはならないのはもちろんである。しかし「ドーピングは悪い」「ドーピングは絶対ダメ」だけでは、道徳科の授業としては不十分である。生徒たちに葛藤させながら、自分自身と向き合わせながら、「なぜ、ドーピングに手を出してしまうのか」「(秘密を貫かず自ら)告白するのはなぜなのか」に、注目させることで、生徒が、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもって自己肯定でき、よりよく生きる喜びを見いだせるように深められるかが、授業づくりのポイントである。

・多様な学習展開

導入段階で、釣り銭の間違えという身近な題材をきっかけとして、人間誰しも自分の中に弱い心の存在があることを実感させる。また、自分の微妙な気持ちの割合を表現させたり、お互いの共感を得られやすくするため、心情円盤を活用することで、生徒にとって「自分事」の話題に近づける工夫をした。

・学習指導における配慮事項

オリンピックや世界選手権の金メダリストが主人公の教材である。生徒にとっては観客になることはあっても、ドーピングのこと、陸上競技のことを、「自分事」として捉えさせることは、なかなか難しいことが予想される。また、学級の仲間たちがいる中で、「自分の本音」が表現できるのかどうかも重要になるが、そのあたりのバランスは、まさに授業者の配慮事項といえるであろう。

2 道徳科の評価について

・評価の工夫と留意点

中心発問に対して、自分の考えを他者に伝えるとともに、他者の考えを聞いて自分の考えが広がったのかを、話し合いや意見交流の姿から授業者が見取る。また、人間には自らの弱さや醜さを克服するための強さや気高く生きようとする心があることを理解し、自分の心に向き合いながら、よりよく生きることの意味を見いだそうとしたかを、ワークシートの記述から授業者が見取る。

・校内で共通理解を図るための手だて

研究部主催の校内研修会において、道徳科の教科書の効果的な活用法、授業展開やワークシートの工夫についての研修を深めた。また、教務部からの提案に基づき、授業のようすやワークシートの記述から、適切な評価についての研修を深めた。